

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

他者と協働しながら、より良い未来を創造できる“自律”した生徒の育成

各学校で定める目標と育成する資質・能力

○自ら課題を見つけ、他と協働しながら課題解決に向かって行動することができる。
○生涯にわたって学び続けることができる。
【育成する資質・能力】
(1) (知識・技能)
課題発見のため、またその解決に向けて必要な情報を収集・整理するために必要となる基礎的・基本的な知識や技能
(2) (思考力・判断力・表現力)
自分なりの考えを持ち、その考えをもとに課題解決に向けて他者と協働しながら新たな提案をする力
(3) (学びに向かう力、人間性等)
自己実現やよりよい社会の実現のために、自律的に行動することのできる力

総合的な探究の時間の学習評価

○月1回の授業担当者会議で、学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。
○单元ごと、内容のまとめごとに評価する。
・レポートや発表・ディベート、質疑の様子、作成した資料を評価の対象とする。
・学習や活動の状況などの観察記録を過程の評価として加味する。
・評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価を加味する。
○衛生看護科の2・3学年においては、代替科目「看護臨地実習」で評価する。

生徒の実態

○素直であるが、学習意欲が乏しく、自ら課題を発見し解決することが難しい。また自己評価の低い生徒や他者と関わりを持つことを好まない生徒が多い。
○進学(大学、短大、専門学校)希望の生徒と就職希望の生徒の両方が存在する。
○衛生看護科においては、ほぼ全員が専攻科へ進学する。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

○個別の指導計画等に基づいて、個に応じた指導を工夫し、個別支援を行う。
○専門機関や家庭との連携を図る。

目指す生徒の姿

○教養を持ち、適切な情報を主体的に収集・整理することができる。それらの情報から自分なりの答えを出し、それを表現することができる。そのことから自己肯定感も高くなる。
○他者と積極的に関わり、課題解決に向けて協働的に行動することができる。各々が自分なりの答えを持って話し合い、新たな提案をすることができる。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

○1学年 「地域・社会を知ることによって自己を見つめる」
・情報収集力やその力を地域の課題や命の大切さを知るために十分に生かす力を育成する。
・主体的に協働して課題解決に取り組む姿勢を養う。
・持続可能な社会を目指しその一員であることを自覚し成長しようとする力を育てる。
○2学年 「さらに国内外に視野を広げ、エネルギー問題・国際平和について考え、地域社会に関心を向ける」
・1学年での学習を踏まえ、フィールドワークや文化体験を通し、国内外に関する課題の発見や解決するための知識や技能を育成する。
・自分なりの意見を持ち判断する「考える力」や多様な個性を紡ぎ合わせることで課題を解決していく「協働する力」を養う。
・よりよい社会を実現しようとする態度や社会貢献しようとする意識を育てる。
○3学年 「職業の選択と社会貢献及び自己実現」
・自己の在り方・生き方や進路について考察する学習を通して、進路選択に必要な能力や態度を育成する。
・自他のよさを認め特徴を生かしながら、協働して解決に向けた探求に取り組もうとする姿勢を養う。
・身に付けた知識や技能を現実生活や今後の進路選択に応用するとともに、常に自分を向上させる。

学習活動、指導方法等

【普通科】【衛生看護科1学年】
○各学年週1時間
○地域、生命、社会、職業と勤労などから研究課題を設定する。
○一人一人が主体的に深く考える個人研究から、互いの意見を尊重しながら協働的に取り組むグループ研究へと発展させる。
○探究学習、フィールドワーク、講演会、地域と協働した体験学習、ディベート、発表会、大学訪問、企業訪問、インターンシップなど。
○各教科・科目で身に付けた知識を教科横断的に活用する。また教科・科目等との関連的な指導を重視する。
○全学年とも学校自作のワークシートを使用する。
【衛生看護科2、3学年】
以下の科目で代替する。
《2学年》
「看護臨地実習(3単位)」で代替
2学期:週1日(14日間)病院実習、3学期:週3時間
《3学年》
「看護臨地実習(7単位)」で代替
2学期:週3日間(30日間)病院・施設実習

【普通科】【衛生看護科1学年】

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

○各教科の協力も得て、学年の担当者(担任・副担任)を中心に各学年で指導する。
○月1回授業担当者会議を行い、情報や課題を共有する。
○発表会への参加により、保護者や地域と連携する。
○普通科においては、大学訪問や企業訪問、インターンシップなど大学や企業とも連携して行う。
○教職員全体の指導力向上のため、校内研修を学校全体で実施する。
【衛生看護科2、3学年】
○保護者、病院、老健施設などと連携して行う。○教科全体で指導する。